

首相から国民の代表として国会議員になるよう要請された。目的は人民をヴェルディ・オペラにより「愛国心」を高揚させることであった。

ヴェルディは音楽を通して政治的な背景を揺るがすことができることを知った。そして国家統一運動において最も有名な人物になったこともあって、明らかに革命的な姿勢を反映したオペラを次々書いて、耳目を集めたのである。

*宗教について

先述の通り、カトリック教会、キリスト教に対して疑問を呈した。神との合一を求めない。農業＝自然との共生。自然との合一を求めた。

ヴェルディは教会へ行くのが嫌だった為、サンタ・ア・ガータの屋敷に個人の礼拝堂を設けている。特別に必要があれば牧師を呼び執り行った。

後に、妻ジュゼッピーナの話によると、「この礼拝堂で敬虔なる祈りを捧げている姿を見たことがない。」と言っている。

*財を成して

これらの作品がバカ当たりした結果、1848年サンタ・ア・ガータに農地33万坪を暫時買い増し、住宅の増改築をし、自由を謳歌するため、日常生活の起点となし、作曲活動、農業をも営んだ。また、ブッセートに邸宅を購入した。オルランディ邸である。現在は「ヴェルディ博物館」になっている。以上がリソルジメント運動と共に作曲をした頃の総合的成果である。

*ヴェルディの人格形成がほぼ出来上がる。傲慢と小心、気難しい闘志、人との関係を持たない。短気、せっかち、頑固、かたいじ等である。

*カミッロ・ベンソ・カヴール (Camillo Benso Cavour 1810/08~1861/06) 政治家、

トリノの貴族(伯爵)で第二子として生まれる。イギリスへ留学。立憲君主制と産業革命の成果を目の当たりに接し、帰国後1847年「リソルジメント」紙を創刊し立憲主義を提唱。'48年政治家としてキャリアを積み始めた。その後、英国での見聞をもとに経済の知識と弁舌を生かし王国の大臣を歴任し、特に資本主義経済の人材育成を図った。イタリア半島諸国の鉄道史を紐解くと、周知の通りイタリア半島で最初に鉄道が出来たのは1839年10月フェルディナント2世が統治するナポリ・シチリア王国で、ナポリの王宮からナポリ湾沿いポルティチ(Portici)の宮殿まで約8kmであった。次に1840年にはロンバルド・ヴェネト王国によるミラノからモンツァ間約13kmである。その後ミラノからヴェネチア間ができるがオーストリア支配の政治的な政策であった。



C・B・カヴールは1852年サルデーニャ国王ヴィットリオ・エマヌエレ2世の下で首相となる。そして1853年12月、カヴール首相の主導の下、活気あふれるジェノヴァ港と産業の中心地トリノ間約160kmに鉄道を開通させ経済発展の基礎を築いた。祝典にはカヴール首相が臨席し祝った。そして2か月後、国王が始発から終点まで乗車、開業を祝った。

外交での大きな成果は、クリミア戦争(1853~1856)参戦である。英、仏に与して1854年